

第2回

「多摩の寺院を学ぶ」

平成10年（1998）

古くから多摩の歴史に関わってきた各地の名刹は、多数の古文書を有し、地域の景観を考える上でも大変重要なところ。第1回のご好評を得て開催された第2回では、こうした寺院をおもに中世や近世に焦点を当てて学ぶ講座となりました。

- | | | | |
|------|-----------|----------------------|----|
| □第1講 | 6月28日(日) | 多摩の寺院と地域文化 | 18 |
| | | 講師 村上 直 (法政大学名誉教授) | |
| | | 村上 直「寺院調査にたずさわって」 | |
| □第2講 | 7月26日(日) | 三田氏と禅寺—海禅寺・天寧寺— | 20 |
| | | 講師 広瀬 良弘 (駒澤大学教授) | |
| □第3講 | 8月30日(日) | 庶民信仰と地域文化—薬王院・大悲願寺— | 21 |
| | | 講師 村上 直 | |
| □第4講 | 9月27日(日) | 見学会：寺院と文化財—高幡不動尊— | 22 |
| | | 講師 村上 直 | |
| | | 広瀬 良弘 | |
| □第5講 | 10月25日(日) | 街道と寺院—高安寺・深大寺— | 23 |
| | | 講師 村上 直 | |
| □第6講 | 11月29日(日) | 戦国社会と禅僧—宗関寺・高乗寺・広徳寺— | 24 |
| | | 講師 広瀬 良弘 | |

定員 70名

場所 多摩交流センター（第4講のみ高幡不動尊）



この講座をきっかけに、たましん地域文化財団刊『多摩のあゆみ』第104号特集「多摩の名僧—中世編—」が編集されております。

平成10年6月28日 午後1時30分～3時30分

第1講 多摩の寺院と地域文化

村上 直 (法政大学名誉教授)

- 1 中世から近世への移行と寺院
政治的支配と庶民生活
- 2 近世における寺院
 - ①集権的封建体制による規制
 - ②封建的身分秩序による拘束
 - A幕府・諸般の仏教政策
…寺院法度
 - B仏教諸制度の制定
寺社奉行、本末制度、触頭制、
宗門改と寺請制 檀家制
 - C寺院の増加
上方本寺と田舎本寺…末寺
都市と地方寺院
寺院の開創
新寺、引寺
 - D地方文化の発展と仏教への親近感
仏教思想の受容－学者や文学者
仏教の世俗化－仏教行事と庶民生活
葬式、供養、治療、祈願
講中と民間信仰
開帳、縁日、巡礼
涅槃会、盂蘭盆会、彼岸会
- 3 近世における寺院の僧侶
 - A宗派と諸信仰
 - B町・村役人と僧侶の役割
仏教思想の普及 身元保証人
説論者 相談者 (カウンセラー)
寺子屋の師匠 その他
- 4 仏教の現実化・世俗化
庶民生活との融合化
- 5 多摩地域の寺院と名刹
 - A徳川氏の関東入国と寺領寄進
寺領は朱印状を下付して、寄進の形で
安堵した。
 - B多摩地域の寺領 (朱印高) の推移
「武蔵田園簿」(慶安年間)
「旧高旧領取調帳」(幕末期)
 - C名刹と宗派の動向
- 6 文化財保護と寺院
 - A有形文化財
・建造物
・美術工芸品 (絵画・彫刻・工芸品・
書籍・古文書・考古資料・歴史資料)
 - B無形文化財
・芸能
・工芸技術、その他
 - C民俗文化財
 - D記念物
・遺跡 (史跡)
・名勝地 (名勝)
・動植物、地質鉱物
- 7 歴史事象を関連づけての保存
信仰、名所、行楽、遊山

寺院調査にたずさわって

村上 直（法政大学名誉教授）

第2回のテーマは「多摩の寺院を学ぶ」である。多摩の地域社会には多くの寺院が分布している。その古刹や名刹には豊かな歴史と文化そして伝統がある。一般に名刹には貴重な有形・無形の文化財があり、寺院への信仰が、やがて観光や遊山とも一体となり、まさに地域におけるシンボルとなっている場合が多い。とくに神仏習合によって、同じ境内に神社と寺院が並存している。この歴史講座では①地域社会における寺院と文化財、②庶民信仰と現世利益、③街道や脇往還と寺院の関係という視座から学ぶことにした。

多摩地域にある田舎本寺は、その末寺・門徒の寺院と共に現世利益などによって周辺の村や町の庶民生活に密接な関係をもっていることに注目した。

とくに見学会は高幡不動尊であった。豊富な文化財を見学しながら、寺院の歴史と文化財を学んだが、同寺では『高幡山金剛寺の歴史』（平成18年）と『高幡不動尊金剛寺の指定文化財』（平成19年）を刊行している。また『多摩のあゆみ』第104号では特集「多摩の名僧」を編集している。

高尾山薬王院については、『多摩のあゆみ』第99号で特集「高尾山」（平成12年）が編集され、次いで東京都教育委員会『高尾山薬王院文化財調査報告』（平成15年）が刊行されている。なお、平成12年9月30日、法政大学の研究会では特別講演会「江戸時代における高尾山信仰—武家と庶民の生活に関連して—」（村上直）を開催し、寺院への関心を高めている。また村上直・外山徹・岩橋清美・吉岡孝は『高尾山報』連載の高尾山文書の解説を一書にまとめ『高尾山薬王院文書を紐とく』（ふこく出版、平成17年）を上梓した。同じく『山報』には平成15年8月から外山徹らが「高尾山歴史探訪」を連載している。

こうした歴史講座の成果を踏まえて、多摩の寺院については、祈祷寺と菩提寺に分けて見るのではなく、この2つを兼ねた寺院に注目してゆく必要がある。さらに寺院は田舎本寺と末寺・門徒の関係だけでなく地域の中での札所の分布によって、宗派を超えた繋がりをみていくことが必要ではないかと思う。多摩の地域社会における寺院の役割は大きい。

平成10年7月26日 午後1時30分～3時30分

第2講 三田氏と禅寺

— 海禅寺・天寧寺 —

広瀬 良弘（駒澤大学教授）

1 日本禅宗史概観

禅宗の受容

臨済宗と曹洞宗—叢林（五山派）と林下
国家→個人へ

→鎌倉仏教の発生、論理が明快、易行、
専修

戦国時代に林下の寺院が、在地領主
に保護を受け、広がっていく。

2 禅僧・禅寺と地域社会

禅僧と葬祭

- ・曹洞宗寺院の増加と中世の戦乱期が
重なる。
- ・曹洞禅僧語録中の座禅関連法語・葬
祭関連法語の比率を比べると、年が
下るに従って、次第に葬祭に関する
法語が増えてくる。
- ・葬式の必要と曹洞宗寺院の増加。

禅僧と授戒会

- ・授戒→戒名、僧侶に準じた葬式
- ・中世には有力な農民層までは死に際
し、禅僧によって引導を渡される。
- ・葬式を通じて人々に浸透。

3 天寧寺・海禅寺の系譜

大綱・吾宝・雲派と無極・月江・一州派
大綱・吾宝・雲派

→一華文英・天寧寺開山

無極・月江・一州派

→一州正伊・海禅寺開山

4 天寧寺の歴史と三田氏

天寧寺の景観—霞池と霞川—

開発のどん詰まりの水源を聖域に
梵鐘の铸造

大永元年・三田弾正忠政定

末寺の展開

山門の仏—御岳の仏

薬師如来、羅漢。明治の廃仏毀釈時に
御岳から移転。

5 海禅寺の歴史と三田氏

海禅寺と三田氏

三田氏墓所がある。

昭和59年に全焼。復興。

勅願寺となった海禅寺—綸旨

天正3年綸旨、当時の寺名は福禅寺

禅師号と勅書

天正13年海禅寺七世東岳和尚の禅師号

海禅寺と後北条氏

勅願寺、禅師号勅書も後北条氏が自ら
の力を示すために行ったもの。

末寺の成立

6 まとめ—寺院の成立・存在から何を学 ぶか

- ・寺院は地域の古い文書をたくさん所有
している。
- ・寺域の景観から地域の様相の様々を学
び取ることができる。

平成10年8月30日 午後1時30分～3時30分

第3講 庶民信仰と地域文化

—薬王院・大悲願寺—

村上 直 (法政大学名誉教授)

第2回

1 仏教の宗派と時代の変遷

奈良・平安・鎌倉・室町
→江戸時代

2 真言宗—山岳仏教 (修験道)

古義真言宗 = 高野山・東寺・醍醐・御室・
大覚寺・泉涌寺派
新義真言宗 = 智山派 (京都・智積院)、
豊山派 (大和・長谷寺)

3 高尾山薬王院有喜寺

寺院と神社の共存

A 飯縄信仰

B 本地仏 = 大日如来—不動明王— (化
身) —飯縄大権現 = 本尊 (大天狗・
小天狗)

4 高尾山薬王院の境内

- ①山門 (持国天・増長天・広目天・多聞天)
- ②仁王門
- ③本堂 (薬王院有喜寺) …薬師如来・大
日如来)
- ④大師堂 (もとは大日堂)
- ⑤本社 (飯縄権現堂) …飯縄大権現
- ⑥奥之院不動堂 (元は護摩堂) …不動明
王と二童子
- ⑦浅間社

5 上方本寺—田舎本寺

田舎本寺 (薬王院) —末寺—門徒 (十七寺)

6 薬王院の庶民信仰

- ①祈禱
- ②開帳
- ③講中 (有信講など)

7 触頭 (江戸四箇寺)

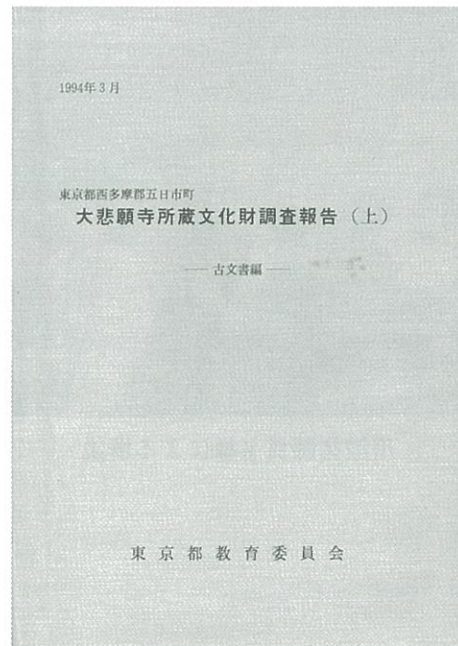
愛宕・円福寺、愛宕・真福寺
本所・弥勒寺、湯島・知足院→根生院

8 金色山吉祥院大悲願寺

・末寺は三十二寺

参考文献

『大悲願寺日記』上・下 (五日市町郷土館)、『大
悲願寺所蔵文化財調査報告』上・下—古文書
編 (東京都教育委員会)



東京都教育委員会編『大悲願寺所蔵文
化財調査報告 上』

平成10年9月27日 午後1時30分～3時30分

第4講 見学会：寺院と文化財

—高幡不動尊—

村上 直 (法政大学名誉教授)
広瀬 良弘 (駒澤大学教授)

第2回

第4講は、高幡不動尊の見学会となりました。あいにくの雨模様とはなりましたが、境内や宝物館の見学のみならず、お寺のご好意で都重要文化財の不動明王胎内文書を特別に公開いただきました。貫主様直々のご説明もいただき、間近に見学することができました。



高幡不動



先生方による解説



川澄祐勝貫主様による解説



不動明王胎内文書の見学

第5講 街道と寺院

—高安寺・深大寺—

村上 直（法政大学名誉教授）

1 寺院の建立と時代

- ①古代・中世の寺院
- ②近世の寺院
- ③近現代の寺院

2 寺院内の建物

祖師堂 御影堂 釈迦堂 阿弥陀堂
太子堂 開山堂 観音堂 不動堂
円堂 戒壇堂 文殊堂 法華堂
常行堂 灌頂堂 [庫裏・庫院]

3 仏像の種類

如来 菩薩 明王 天 羅漢
形態：椅像、坐像 立像
製作形態：銅造、塑造、乾漆造、木造

4 寺院見学について（寺院の位置 創建の理由）

街道（甲州道中・青梅街道・五日市街道・その他）と寺院の関係

5 竜門山等持院高安寺（府中市片町）

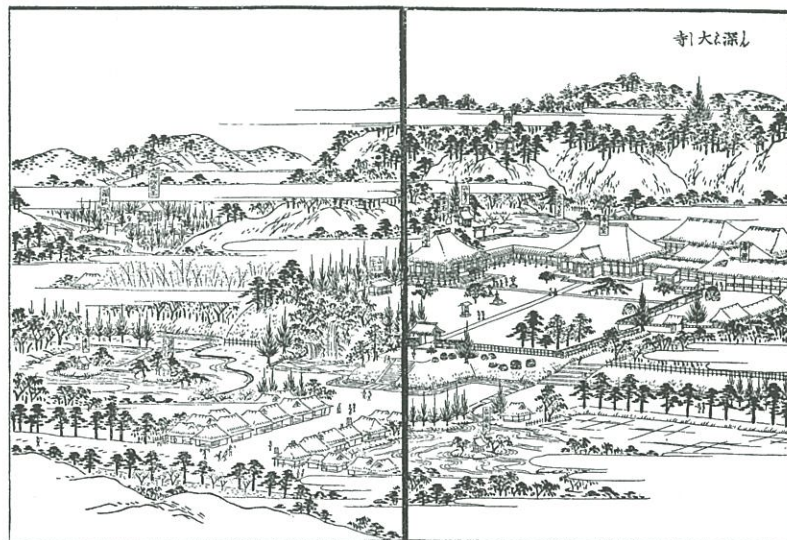
- * 木曾源太郎の墓（都指定文化財）
- * 野村瓜州の墓（市史跡）
- * 高林吉利の墓（市旧跡）
- * 高安寺観音堂（市重要文化財）

6 浮岳山昌楽院深大寺（調布市深大寺）

- * 銅造釈迦如来椅像（国重要文化財）
- * 梵鐘（国重要文化財）
- * 深大寺中横合狼藉禁止の「朱印状」（市指定文化財）
- * 深大寺元三大師参詣の「道標」（市指定文化財）
- * 深大寺縁起（市指定文化財）
- * 河鍋暁斎の天井画「竜」（市指定文化財）
- * イヌシデの木（市指定天然記念物）

参考文献

『調布市史研究資料Ⅲ 深大寺住僧長弁の文集 私妙案』調布市、1985年



深大寺（『江戸名所図会』より）

平成10年11月29日 午後1時30分～3時30分

第6講 戦国社会と禅僧

—宗関寺・高乗寺・広徳寺—

広瀬 良弘（駒澤大学教授）

第2回

1 広徳寺（あきる野市）

- * 臨済宗建長寺派、本尊聖観音菩薩
- * 開創は応安6年（1337）または明徳年間（1390－1393）。当地の長者の妻智雲尼が心源希徹（建長寺69世）を開山に迎え開創。正応長者が妻の魂を鎮めるために開基したとも伝えられる。
- * 北条氏康が堂宇再建、天正19年徳川家康が朱印地40石を寄せたと伝える。
- * 大石氏を通し、後北条氏の影響力が強まってくることを示す古文書が残る。
「寺領之書立」天文20年（1551）
北条氏印判状「寺中門前共ニ棟別之事」弘治3年（1557）

2 高乗寺（八王子市）

- * 曹洞宗、本尊釈迦牟尼仏
- * 応永元年（1394）長井大膳太夫高乗の開創。開山は広園寺開山の峻翁令山、往事は臨済宗。空海禅忠が中興し長禄

元年（1457）現在地に移転。最興寺三世通庵浩達を開山に請し曹洞宗に改める。永禄2年（1559）小宮山民部が檀越となり本堂・庫裡を再建。後北条氏の外護を受け、天正19年以降は徳川氏より寺領10石の朱印も受けた。

- * 広徳寺と同じ、北条氏印判状「寺中門前共ニ棟別之事」弘治3年（1557）他があり、後北条氏の支配、より進んでくる様子がわかる。

3 宗関寺（八王子市）

- * 八王子城を作る際に北条氏照の菩提寺とし、外護を受けた寺院
- * 一世：佛國普照禅師ト山和尚
- * 北条氏照の尽力により、後北条氏が勢力を強めていた永禄12年（1569）に正親町天皇より綸旨をうけ勅願寺となる。



高乗寺